

彩の歳時記

平成二十三年 二月

人はいき心も知らず古里の花ぞ昔の香にほひける

紀貫之【866～945】

(あなたは、はて(冷たくなられたようですが) 昔なじみの里では梅の花が昔の香りで咲いていることです)

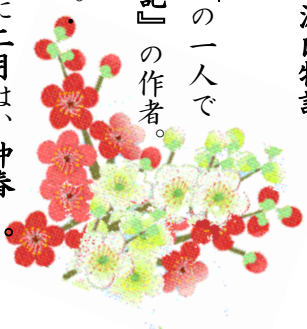
「百人一首」にもあるこの歌の舞台は、奈良初瀬の長谷寺。万葉集、古今集、源氏物語枕草子、蜻蛉日記、更級日記、芭蕉、蕪村、虚子の俳句にも詠まれた古刹。

紀貫之は古今集の撰者にして代表的歌人。人麻呂と並ぶ和歌史上最大の歌人の一人で

三代集(古今・後撰・拾遺)すべての最多入集歌人。古今集仮名序や『土佐日記』の作者。

この花は梅で春にさきがけて咲く初花。観梅を楽しむ二月、東京近郊では

湯島天神・羽根木公園・越生・青梅・小田原・熱海・水戸などが有名です。



二月の異称

如月 衣更着「衣を更に着る」の意。旧暦では、一く三月が春、ゆえに二月は、仲春

二月の暦

一日 テレビ放送開始記念日。昭和二十八年(1953)のこの日、東京内幸町の放送会館から初のテレビ放送を開始、第一声は局長の「JOAK-TV、こちらはNHK東京テレビジョンであります」

五十年を過ぎ今や情報の主流はインターネットに。

三日 節分 季節を分ける日 春は特に有難がられたことから、この日が暦に残った。「豆まき」

「鬼やらい」は豆を撒いて鬼「おに」陰「おん」目に見えない邪気を払う行事。この日

「恵方を向いて巻寿司の丸かぶりをする」西の風習が近年、全国的に。今年の恵方は南南東。



四日 立春【二十四節気】「春立つ日」旧暦では、一年の初めの日で「立春正月」ともいう。

十一日 建国記念の日(国民の休日) 1967年(昭和42年)施行。他の祝日が祝日法の制定であるのに反し、

この日だけが「政令で定める日」。戦争利用という過去から「建国記念日」法案は九回の提出、廃案を繰り返した後「の」の挿入により建国という事象そのものを記念する日の解釈で成立。

第一代天皇の神武天皇の即位された日に因む。

十二日 菜の花忌 テレビドラマ「坂の上の雲」が人気の歴史小説作家。司馬遼太郎【1923～1996】の忌日。

好きだった「菜の花」に因む・現代人の持つ「信長、秀吉、家康、西郷隆盛

坂本竜馬等」の人物像は彼の作品に負うところが大きいと言われる。「梟の城」

で直木賞、「竜馬がゆく」「国盗り物語」「街道を行く」など。



十四日 聖バレンタインデー キリスト教に基づく本来の意味は薄れ「愛を伝える日」として定着。

十六日 西行忌 平安末期の歌人・西行【1118～1190】の忌日。陸奥・四国を旅し、河内の国で死去。

約五五〇年後、芭蕉は、その足跡を訪ね「奥の細道」の旅に出た。自撰歌集に『山家集』。

『新古今集』に最多の九十四首を収録。

ねがわくは花のもとにて春死なむこの如月の望月の頃



十九日 雨水【二十四節気】雪が雨に変わり、暖かくなる。

二十三日 皇太子誕生日 浩宮徳仁親王殿下は昭和35年(1960)誕生



の五十一歳。お印は梓

早春賦 吉丸一昌

一 春は名のみの風の寒さや

谷の鶯 歌は思えど

時にあらずと 声も立てず

時にあらずと 声も立てず

二 氷解け去り葉は角ぐむ

さては時ぞと 思うあやにく

今日もきのうも 雪の空

今日もきのうも 雪の空

三 春と聞かねば知らざりしを

聞けば急がる胸の思を

いかにせよとの この頃か

いかにせよとの この頃か

二月の歌

早春賦

曲 中田章

大正二年

春を待つ歌の定番として人気が高く、文語体の詞が美しく懐かしい日本語の雰囲気を与えてくれる。題名の「賦」とは漢詩の表現・修辞による分類の一つで、比喻によらず、心に感じたことや事物を直叙したもの。詞の舞台、長野県安曇野に歌碑公園がある。

